

# ATEM Newsletter

ATEM公式サイト <http://www.atem.org/>

August, 2020  
No.38

## 支部・委員会活動報告特集

発行：映像メディア英語教育学会事務局  
(旧映画英語教育学会)  
住所：〒169-0075  
東京都新宿区高田馬場4-3-12  
アルク高田馬場4F  
TEL：03-3365-0182  
FAX：03-3360-6364  
E-mail：office@atem.org  
郵便振替：00820-3-1477

映像メディア英語教育学会 / The Association for Teaching English through Multimedia

### ■会長挨拶

**ATEM President**  
**YOKOYAMA Hitoshi**  
(Kyoto Women's University)



**ATEM 会長**  
**横山 仁視** (京都女子大学)

日頃は本学会の諸活動へのご理解と多方面からのご協力を賜り、心から感謝申し上げます。例年であれば、7月中旬は前期定期試験直前の時期であり前期授業期間を滞りなく終わられるはずでした。しかし今年は一変し、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大により従来の伝統的スタイルである対面形式での授業実施が見送られ、各種 ICT を活用したオンラインでの授業デザインを余儀なくされてしまいました。一部の地域では4月より対面での授業を行っているところもありますが、ほとんどの会員の皆様の教育現場では、かつてない経験の中で授業運営に忙殺されておられることと察し申し上げます。また、こうした社会状況において、本来ならば既に会員の皆様のお手元に届いているはずの3つの郵送物（主に全国大会案内を記載したNL、年会費振込用紙、ジャーナル）の郵送が遅れましたことを本紙面にて改めてお詫び申し上げます。

さて、学会ホームページおよび会員メールで既にお知らせさせていただきましたように、本年度の2つの大きなイベントである姉妹学会のSTEM全国大会（10月17日、国民大学校[ソウル]）とATEM全国大会（11月7日、神奈川大学）を中止する判断に至りました。特に今年はATEM-STEMの交流20周年記念の年であっただけに、双方の大会において特別プログラムを実施する計画を立て今回のNLでも案内できる運びとなりました。誠に残念でありませんが、この特別企画に

ついては国際交流委員会と大会運営委員会の協力を得ながら来年度への持越し企画とし記念すべき盛大な大会にしたいと思います。

全国大会の中止とは別に、前期から夏季休暇中にかけて予定しておりました一部の支部大会も当初予定日での開催は中止となりました。しかし、今年度の各支部大会を全て中止するのではなく、コロナ感染拡大の状況に鑑み状況が許せば従来の対面参加型の支部大会、もしくはそれに代わるオンラインでの支部大会の開催を前提に各支部で鋭意検討いただいております。

“with コロナ”の社会状況にあって新たな生活様式が求められている中において、本学会もICTをプラットフォームに新たな形での活動の幅を広げることが求められています。見方を変えれば、授業運営の取り組み方と同様に、学会活動の軸も「従来型」と「オンライン型」の両面から提供することが求められているのではないのでしょうか。このことは何も今年度に限った対応策ではなく、今後本学会が追求していく活動の型（方向性）であると思っています。言うまでもなくこの「オンライン型」には特に次の利点があります。1)支部の垣根を超えた活動への参加が可能、2)参加のために旅費など経済的負担を無くせる、3)STEMとリアルタイムで学术交流を図れる、です。過日7月1日に開催した北海道支部企画“OOPS”（Online Open Presentation Series）ではこのことが証明されました。北海道支部会員約20名、他支部会員約10名、STEM会員5名の参加がありました。特にSTEMとの学术交流を考えると時差が無いことは最大の利点でもあります。今後、他支部においてもオンライン支部大会以外に支部の強みを生かした企画が生まれ、会員の皆様に近く案内できる日を楽しみにしております。

(yokoyama@kyoto-wu.ac.jp)

## ■支部だより■

### [北海道支部]

◆2020年1月22日(水)小樽商大札幌サテライトにて、第5回北海道支部ワークショップ(テーマ:観光英語)を開催しました。小樽商科大学大学院ビジネス英語クラスとの合同開催により、30名を超える参加者があり、フィリピンとスカイプで結び、実践報告など大変な盛り上がりを見せました。観光英語の教授法だけでなく、英語での北海道観光をテーマにした現役のビジネスパーソンによるビジネスプランのプレゼンテーションも行われました。

◆2020年3月18日(水)に予定していた対面支部総会は、COVID-19のため中止し、代わりに同日メーリングリストにて、年間活動報告及び予算報告、さらに新年度活動予定及び新支部長新副支部長、その他役員の家が承認されました。北海道支部の事情に鑑み、支部長の任期について「原則」という文言を入れ、元支部長の任期の継続を可能にしました。2020年4月1日より支部長小林敏彦(小樽商科大学)、副支部長(事務局担当)松田愛子(北海道大学)、副支部長(広報担当)斉藤巧弥(北海道大学)の新体制で頑張っています。

(支部長:小林 敏彦)

### [東日本支部]

◆2019年12月15日(日)に第10回東日本支部大会を早稲田大学で実施しました。横山会長をはじめ、多くの先生方に盛り上げていただき、ありがとうございました。題目は以下の通りです。

1. 日本語と英語の視点の違いーラブソングの表現から見えてくるものー  
関口美緒先生(筑波大学・メリーランド大学グローバルキャンパス)
2. マルチメディアツールによる客観的な発音評価:実践と実証  
スプリング・ライアン先生(東北大学)
3. 一講義 90分間にオーセンティックな素材から市販教材に触れる5段階式英語リスニング授業の実践  
小林敏彦先生(国立大学法人小樽商科大学)
4. 映像メディア英語に見る英和辞書開発の課題  
山本五郎先生(法政大学)

5. 映画と集合で解く英語の冠詞

藤枝善之先生(京都外国語大学・短期大学)

6. 19世紀英国社会改良運動へのマルクス主義の影響を考察する～『マルクス・エンゲルス』(2017年)を通して

河野弘美先生(京都外国語大学・短期大学)

7. 映画『メッセージ』(Arrival, 2016)に見る人生の選択  
日影尚之先生(麗澤大学)

◆2020年度3月および6月の例会は、残念ながら中止となりましたが、改めて9月に支部例会をオンラインで実施する予定で調整中です。詳細は後日お知らせしますので、どうぞご参加ください。

(支部長:日影 尚之)

### [中部支部]

◆年度が改まることもあり、それに伴いまして、中部支部の運営委員の体制が大きく変わります。これまで支部の運営にご尽力いただいた先生方は、2019年度いっぱいまで退かれることになりました。中部支部発足以来、長年にわたって支え続けてくださり、支部活動には欠くことの出来ない先生ばかりですが、後進に道を譲るという意味も含め、2019年度を最後にご勇退されます。

◆結果、2020年3月現在、中部支部の運営委員は、事務局長・会計(塚越日出夫)、会計監査(鈴木誠)、支部長(井土康仁)の3名の、コンパクトな体制になりました。経験豊かな先生方が抜けたのに加え、委員の数が少ないので不安がないわけではありませんが、意思決定のスピードも上がり、小回りの利く軽やかな支部になれる可能性があるように感じております。

◆今後の活動方針など、未定な部分がたくさん残っておりますので、今年度の支部大会の開催を含め、これから委員会で話し合いながら決めていきたいと考えております(ちなみに、今年度の支部大会の開催日は、来年の2月か3月の春休み中を考えております)。詳しい日程など決定次第、随時お知らせいたします。

(支部長:井土 康仁)

## 【西日本支部】

◆3月15日（日）に第17回西日本支部大会を兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパスで開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむなく開催を見送ることとなりました。英語学 SIG 企画のワークショップ、著作権についての東日本支部との交流発表、著作権勉強会報告、小学校英語をテーマとしたシンポジウム、京都外国語大学の小野隆啓先生による特別講演等、充実した内容を予定しておりましたので、今回準備していただいていた内容を、可能な限り次回の支部大会で、皆様にお伝えする予定です。また、次回の支部大会をオンラインで開催することも現在検討しております。

◆西日本支部では、著作物の教育・研究利用についての法的規制についてよくわからず、不安を抱いたまま、教育・研究活動を行っている不健全な現状を改善したいということで、昨年度より著作権勉強会を立ち上げて活動を行ってまいりました。第1回目では、著作物を授業や研究で使用する際の疑問点をリストアップし、第2回目では、著作権を専門にされている大阪工業大学知的財産学部教授の甲野正道先生をお迎えし、第1回目の勉強会でリストアップした疑問について、解説していただきました。著作物使用における法的制限についての理解が深まり、不安が払拭される有意義な勉強会となりました。この勉強会の内容は多くの先生方にとっても有益な情報になると考えられますので、HP等で共有する予定です。

◆支部のHPの改修を行い、デザインも新しくなりましたので、またご覧ください。引き続き、SNS（Facebook&Twitter）でも情報を発信してまいりますので、フォローのほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

（支部長：近藤 暁子）

## 【九州支部】

◆毎年夏に開催している九州支部大会ですが、2020年の大会は新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、開催を見送ることとなりました。今年度中はオンライン開催も念頭に実施の可能性を模索していきたいと思っております。また来年は何の心配もなく盛大に大会が開催できる状況になっていることを願っております。

◆2019年の支部大会を9月7日（土）に福岡大学にて実施しました。大会テーマは「映像メディアが生み出す多様な学び」で、シンポジウムと8件の発表が行われました。英語教育、英語文学、言語学、メディア教育等々、多様なご発表が行われ、大変充実した大会となりました。この大会で特筆すべきは支部交流の活性化が強く感じられた点です。当日は九州支部の皆様はもちろん、西日本支部のMichael Okamoto先生（島根大学）、中部支部の寶壺貴之先生（岐阜聖徳学園大学）、東日本支部の小泉勇人先生（東京工業大学）、北海道支部の小林敏彦先生（小樽商科大学）にご発表いただきました。このようにATEMの全ての支部の方のご発表をいただけたことを大変うれしく感じています。また、会場へは会長の横山先生、前会長の倉田先生、中部支部長の杉浦先生が駆けつけてくださいました。全国各地のお土産が集まり、休憩コーナーはさながら「全国うまいもの市」のようでした。



九州支部大会の様子

（支部長：吉村 圭）

## ■委員会だより■

### 【国際交流委員会】

◆姉妹学会である STEM (The Society for Teaching English through Media) の第 24 回国際大会は、2020 年 10 月 17 日 (土) に、ソウルの国民大学校 (Kookmin University) で開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度の大会は中止することとなりました。姉妹提携 20 周年を迎える年にこのような事態となり大変残念ですが、来年度はその分さらに盛大な大会になることを願って、委員会としても努力していく所存です。本年度研究発表を予定されていた先生方、是非改めて来年度の大会でご発表をいただきますようお願い申し上げます。

(委員長：井村 誠)

### 【会員管理委員会】

◆ATEM 会員管理システムをご活用ください。ATEM ウェブサイト右上の「会員」→「会員専用ページ」をクリックしていただくと、「会員管理システム」にログインすることができます。システム内メニューの「個人のページ」「個人の会費納入状況」「大会情報」「ジャーナル情報」「STEM 大会情報」「STEM Journal の投稿申請」から、個人情報の更新・会費納入状況の確認・全国大会の研究発表応募と参加申し込み・ジャーナルへの論文投稿・STEM ジャーナル応募・STEM 大会研究発表応募と参加の申し込みが可能です。

◆登録情報の更新をお願い致します。上記の通り「個人のページ」にアクセスしていただきますと、登録情報の更新が可能です。登録された個人情報をもとに、「ATEM Newsletter」や「ATEM ジャーナル」等の送付、学会からの一斉メールの配信を行っております。ご協力のほどお願い申し上げます。

(委員長：嘉来 純一)

### 【ICT委員会】

◆ICT 委員会では、各 SIG (Special Interest Group) の活動報告に加え、オンラインによる諸活動の案内を紹介するページの拡充を図り、引き続きウェブサイトの内容と利便性の向上に努めてまいります。ご利用いただいた際にご意見やご提案などがございましたら、忌憚なくお寄せいただきますようお願いいたします。

(委員長：巳波 義典)

### 【ジャーナル編集委員会】

◆ATEM ジャーナル第 25 号には 13 編の論文の投稿がありました。分野別では、教育 6 編、言語 4 編、文化 1 編、文学 1 編、アメリカ研究 1 編でした。また使用言語に関しては、英語による論文が 6 編と約半数を占めるという特徴がみられました。今回は論文審査に 26 名の査読委員の皆様のご協力を賜りました。お忙しいところ審査いただき改めて御礼申し上げます。厳正なる審査の結果、10 編の論文 (研究論文 4 編、教育実践報告 3 編、研究ノート 3 編) が掲載されることとなりました。

◆前号で ATEM ホームページ掲載のジャーナル投稿規定が、日本語版、英語版ともに更新されたことをお伝えいたしましたが、論文執筆者、査読委員の皆様のご国際化に伴い、投稿、査読関連書類につきましても新たに英語版を作成、あるいは更新しております。今後も編集作業のさらなる効率化、改善を進めてまいりたいと思います。また第 23 号以降に掲載された論文の J-Stage への登録につきましても ICT 委員会との協力のもと順次進めていく所存です。次号につきましても、会員の皆様からの論文のご投稿をお待ちしております。

#### ●ATEM 論文リンク集●

J-STAGE で閲覧が可能な、ATEM ジャーナル『映画英語教育研究』掲載論文および研究報告は下記よりアクセスできます。

<http://atem.org/index.php/papers/papers>

(委員長：足利 俊彦)

### 【大会運営委員会】

◆本年 11 月に予定していた ATEM 全国大会 (国際大会) は、新型コロナウイルスをめぐる状況に鑑み、6 月の臨時理事会において中止が決定されました。今年度の大会運営委員会は、各支部の大会や研究会を積極的に支援して参ります。

(委員長：藤枝 善之)

### 【広報委員会】

◆本誌掲載のため、原稿作成や写真撮影等にご協力いただき、感謝申し上げます。

(委員長：秋好 礼子)

## ■授業実践報告■

第二言語習得 SLA の観点からすれば、学校の授業は習得を促進する一過程に過ぎません。授業を軽視するわけではありませんが、実際に習得が進む教室外での自立的学習を支援するような授業内容でなければならないと信じています。教師なしでも学習可能な勉強法を授業内で実践し、それをそのまま教室外でも行える仕組み作りが大切です。

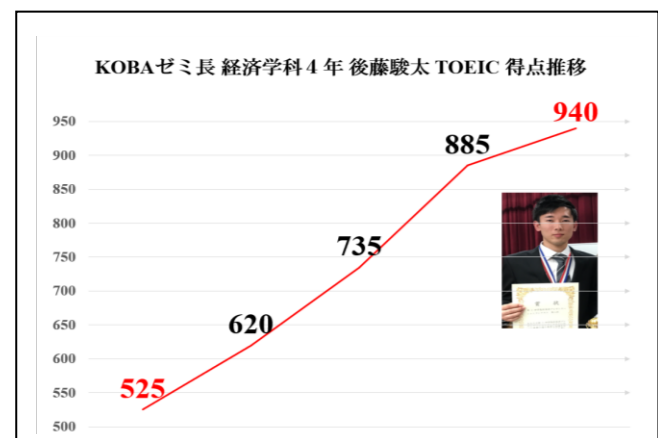
この理念に沿って、私が最も学習効果が高いと考えている音声認識力、文法力、語彙力を着実に高めると考えられる DICTOGLOSS を改良した、ニュースディクテーションを大学在学 4 年間毎日継続しその結果 TOEFL ITP467 点から 600 点、TOEIC 525 点から 940 点まで上げた私のゼミ生のケーススタディーを紹介します。

後藤駿太君は商学部経済学科を卒業し、現在大手外食産業で働いています。高校時代は野球部、大学入学後はヨット部に所属し、バリバリの体育会系として過ごしていましたが、高校時代の夢であるアメリカ留学のために、私の助言に素直に従い部活を 1 年生前期でやめ、4 人の英語の母語話者を含めた留学生を交えての 3、4 年生の私のゼミに毎週参加しました。さらに、私が主催する勉強会 KEG (KOB English Gym : コバ英語ジム) にも参加し、このニュースディクテーションを実践しました。

この学習法は、次のように私の授業で実践しています。1 日 2 回午後 2 時と午後 8 時に放送されるラジオ番組 NHK World News Japan をスマホのアプリ Podcast で聞き、ニュースの冒頭の約 45 秒間に流れる 3 つのトップストーリーの 3 番目の英文を冠詞や名詞の語尾の形態素 s の有無に至るまで完璧に書き取り、朗読スクリプトを見て、出来栄を自己分析するタスクです。わずか 10 秒程度の長さの英文ですが学習者は数十回自分のペースで繰り返し聞いて紙に書きます。その後 1~2 時間以内に NHK のウェブサイトに掲載されることがあるスクリプト、また私自身が聞き取って補足したスクリプトを私のブログに載せます。学習者はそのスクリプトを見て、自分自身の書き取った英文を赤ペンを使って添削のように書き入れたり、修正したりし、写真を撮影して、LINE グループの画面にただちにアップします。これによって、自分の音声認識力の弱点と語彙の不足を日々実感しながら内省し、自分自身の英語力を診断します。ニュース英語の聞き取りに語彙がどのくらい重要であるかを実感しながら、ポキャビルにも力を入れます。これを毎日 365 日継続します。「継続は力なり」を実感してもらう学習です。

TOEFL ITP と TOEIC の受験対策は各セクションの解答のコツなど何度か説明することがありましたが基本的には自分のペースで自分の好きな時間に問題集をこなすように指導しました。学生の TOEFL ITP のスコアを長年分析した結果、20 年ほど前の学生はリスニングが弱く文法が強い傾向にありましたが、ここ数年はその関係が逆転し、リスニングが最も得意で文法が 1 番低いという傾向が見られます。これは、昭和の時代のように英文法が独立した科目としてあり、明示的に教えていたのに対し、現在ではいわば暗示的に英文解釈するために教えているような授業を展開されているためであると考えられます。

後藤駿太君は 3 年次に米国のウェスタンミシガン大学に 2 セメスター (10 か月間) 交換留学してる間もほぼ毎日この作業を続けました。正しい学習法で自立的英語学習を継続し、定期的に英語試験を受験することでモチベーションを維持し続け、米国留学でさらに磨きをかけた結果、その英語力の習得が得点に反映され、見事今年の卒業の際に優秀学生に選ばれました。卒業後は、大手外食産業の海外チェーン店で店長として英語を使ってビジネスをすることが次のステップであると語っています。



ATEM 北海道支部長

国立大学法人小樽商科大学大学院教授 小林 敏彦

## ■会員専用ページ（会員管理システム）

「会員専用ページ」は本部ホームページのトップ「会員」から「会員管理システム」へログインしご利用ください。

<http://atem.org>



会員管理システムでは、メニュー「個人のページ」「個人の会費納入状況」「大会情報」「紀要（ジャーナル）情報」から、個人情報の更新、会費納入状況の確認、全国大会の研究発表応募と参加申し込み、ジャーナルへの論文投稿が可能です。 ※不明点は本部事務局へお問合せください。

## ATEM Clapper Board



1. ATEM 事務局は年度内に京都へ移転します。詳しくは、後日 HP を通してお知らせ致します。
2. 本年度（4月1日～翌3月31日）の会費払い込み用紙は、本ニュースレターの封筒に同封されております。9月10日までに納入下さい。郵便局備え付けの振込用紙（青色）をご利用の場合は、右記口座へ納入してください。個別の納入状況については、本部 HP 内にある「会員情報システム」（アクセス方法はこの頁の上部参照）で確認できます。

ゆうちょ銀行：00820-3-1477  
 口座名義：ATEM 映像メディア英語教育学会事務局  
 ※通信欄に「〇〇年度年会費」と明記してください。

3. 以下の会員の著書が出版されました。  
 松中完二（九州支部）  
 『ソシユール言語学の意味論的再検討』（ひつじ書房）  
 清水純子（東日本支部）  
 『映画と文藝 日本の文豪が表象する映像世界』（彩流社）

事務局 office@atem.org

## <賛助会員一覧> (50音順) 2020.7.1現在

株式会社 朝日出版社  
 株式会社 アルビス  
 株式会社 英宝社  
 株式会社 桐原書店  
 株式会社 金星堂  
 国際トラベル京都  
 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会  
 コスモピア株式会社  
 株式会社 松柏社  
 株式会社 成美堂  
 センゲージラーニング株式会社  
 株式会社 モデル・ランゲージ・スタジオ

## ～編集後記～

COVID-19 が蔓延し、授業や行事の変更、学生への対応など、例年以上にお忙しく、落ち着かない中、原稿作成や校正にご協力くださった皆様、心より感謝申し上げます。

[広報委員会] 2020.7.1現在  
 委員長：秋好 礼子（九州）  
 委員：田口 雅子（北海道） 杉浦 綾子（東日本）  
 井土 康仁（中部） 衛藤 圭一（西日本）  
 石田 もとな（九州）

©ATEM All rights reserved.

